



## 2. これまでのアートコンペ受賞者の近況

アートコンペ入賞者の、最近の活動をご紹介します。

### ■大村 雪乃(2012年度受賞者)

1988年中国 吉林省生まれ、現代美術家。文房具の丸シールで東京の夜景を描き出し、その意外性と美しさから多くの支持を得た作品で「Tokyo Midtown Award」2012年度入賞、オーディエンス賞。ユニークな表現から、メディアにも取り上げられ、「六本木アートナイト2014」では東京ミッドタウンのステージでTokyo Midtown Awardをテーマにしたトークショーのほか、公開制作などを行った。アートをより身近に感じていただけるよう精力的にワークショップを開催するほか、柚木麻子「その手をにぎりたいたい」、中村航「デビクロくんの恋と魔法」など書籍の装丁にも関わり、活躍の場を広げている。



2013年、銀座・Gallery Qでの個展の様子



六本木アートナイト2014でのワークショップの様子

#### <最近の主な活動>

- ・第7回三井不動産商業マネジメント オフィス・エクシビジョン出展(2014年4月26日～9月26日)
- ・個展(2014年 銀座三越)
- ・フジテレビ「冬フェス2013-14」にてワゴン車のアート作品を展示
- ・個展「ビューティフル・ナイト(Beautiful Night)」伊勢丹新宿店
- ・「ピンクリボン 大村雪乃シールアート展 Beautiful Pink」
- ・その他書籍の装丁など

### ■小松 宏誠(2008年度受賞者)

1981年、徳島県生まれ。「求愛し続ける時計」で「Tokyo Midtown Award」2008年度入賞、オーディエンス賞。自然現象や鳥などの生物をテーマに、詩的な空間表現を行うアーティスト。最近では、ISSEY MIYAKEが制作したオリジナルの生地で作られた羽根を、「風見鶏」や「シャンデリア」として融合した作品が、好評を博した。その他、「魔法の美術館 光のアート」展へ出展、六本木アートナイト2014では、毛利庭園にインスタレーション作品を出展するなど、様々な展覧会やアートイベントに参加し、活動の幅を広げている。



ISSEY MIYAKE コラボレーション作品/©Shin Inada

#### <最近の主な活動>

- ・六本木アートナイト2014 六本木ヒルズ毛利庭園にて展示(2014年)
- ・ISSEY MIYAKEとコラボレーション「Wearing Light」展示(2014年)
- ・「MEDIA AMBITION TOKYO」出展(2014年 六本木ヒルズ、INTERSECT BY LEXUS TOKYO)
- ・全国22会場で50万人を動員した「魔法の美術館 光のアート」展に出展(2013年 上野の森美術館他)

## 3. アートコンペ 受賞者サポート

### <アートコンペ 賞金と受賞者サポート>

- 賞金 グランプリ(1点)100万円、準グランプリ(1点)50万円、優秀賞(4点)10万円  
※入賞者ひとり(または1組)につき制作補助金 100万円を支給します。
- グランプリ受賞者を海外アートプログラムへ招聘(University of Hawai'i at Mānoa)
- 発表機会の提供(入賞者全員)

#### ◆ アートコンペグランプリ受賞者をハワイ大学のプログラムに招聘

##### University of Hawai'i at Mānoa/Department of Art and Art History



アートコンペグランプリ受賞者を University of Hawai'i の Department of Art and Art History が実施するアートプログラムに招聘いたします。歴史ある本プログラムへは、これまで数多くのアーティストや学者が招かれ、ハワイの芸術文化に触れながら、各種のアートプログラムを行っています。受賞者には、実際にハワイに滞在し、ハワイ大学のアートプログラムに参加しながら作品を制作する機会が与えられます。

#### ◆ 「ストリートミュージアム」への出展

アートコンペ受賞者の支援として2015年初春に展示企画「ストリートミュージアム」を実施いたします。各受賞者は、本イベントにおいて作品展示が可能となります。

今年も「Tokyo Midtown Award 2013」のアートコンペ受賞作家6組が、2014年3月20日(木)～4月20日(日)まで東京ミッドタウンプラザ B1F のスペースにアート作品を展示しました。

4月19日(土)、20日(日)に六本木エリアで行われた「六本木アートナイト 2014」では、東京ミッドタウンのエリアプログラムとして特別参加し、多くの方に作品に触れていただき、さらなる機会にもなりました。

「ストリートミュージアム」では作品制作費、搬入費のサポートをはじめ、東京ミッドタウンで同時期に開催されるイベントでの告知、紹介など、多くの方の目に触れる機会を提供しております。

＜六本木アートナイト 2014 エリアプログラムでの「ストリートミュージアム」の様子＞



▲中里 洋介「春のリアル」



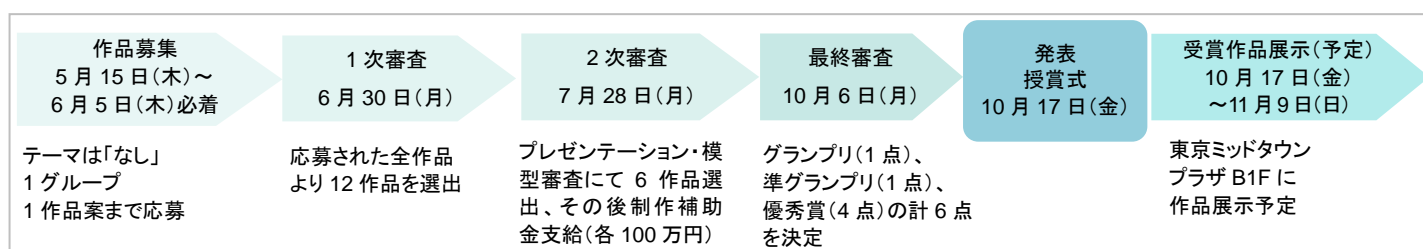
▲赤嶺 智也「春な人々」  
観客参加型のライブペイントを実施



▲山上 渡「未知の無知」(左)と  
パフォーマンス「ハレトケ」(右)

#### 4. 今後のスケジュール(アートコンペ・デザインコンペの審査の流れ)

##### ＜アートコンペ＞審査の流れ



アートコンペでは、6月5日(木)に応募を締め切り、1次審査で12作品を選出。2次審査では、応募者による公開プレゼンテーション及び模型審査を行い、最終審査に進む6作品を決定します。各審査には、アートコンペ審査員5名全員が参加します。入選作品を選ぶだけでなく、結果的に落選となってしまう応募者にも、よりよい作品への“ヒントを与える”審査となり、「Tokyo Midtown Award」が“育成型コンペ”たる所以とも言える審査会です。

2次審査は、事前にウェブでお申し込みいただいた一般の方もご見学いただけるほか、報道関係者の皆様にも公開いたします。

★アートコンペ説明会(結果発表・展示までのプロセスの説明、応募用紙の記載のコツなどをご案内します)

日時:5月10日(土) 14:00～15:00/5月21日(木)19:00～20:00

会場:東京ミッドタウン・デザインハブ内 インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

(事前登録不要、参加無料)

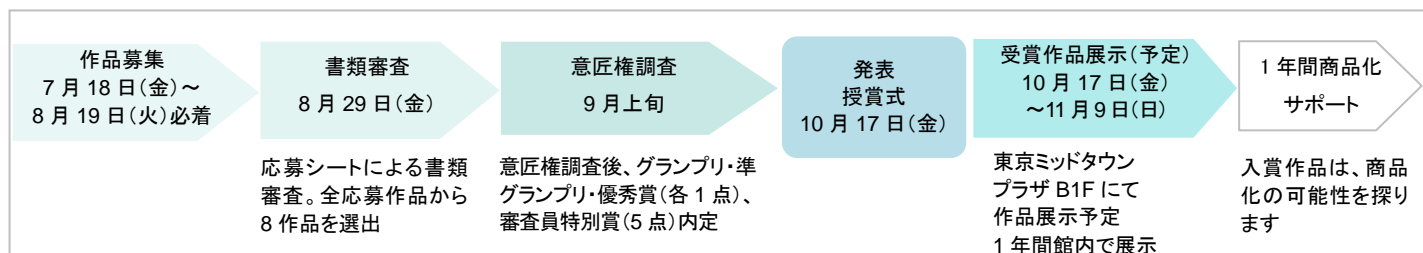
##### 「Tokyo Midtown Award 2014」デザインコンペについて

同時開催のデザインコンペでは、「和える」をテーマに、7月18日(金)から作品の募集を開始します。書類審査の後、10月17日(金)(予定)に受賞作品8点を発表します。書類審査は報道関係者の皆様に公開させていただきます。

★デザインコンペ説明会(会場、参加条件はアートコンペ説明会と同内容)

日時:6月21日(土)14:00～15:00/7月5日(土)14:00～15:00/7月16日(水)19:00～20:00

##### ＜デザインコンペ＞審査の流れ





## 5. <アートコンペ> 審査員からのコメント



### 児島やよい

(フリーランス・キュレーター／ライター／慶応義塾大学、明治学院大学非常勤講師)

「東京ミッドタウン」に、何を投げかけるか。さまざまなものを内包する場と空間に、どんな作品を展示するか、今回はテーマを自分で設定するところから、提案してもらいます。空間の制約、予算、不利な条件と、いろいろクリアしていくのは難しいけれど、アーティストにとって必ずプラスになる経験ができるはず。行き交う人たちと、どんな対話ができるか。「ここにこの作品があること」で、どんな変化をもたらすことができるのか。じっくり考えて、ぜひチャレンジしてください。



Photo by Herbie Yamaguchi

### 清水敏男

(東京ミッドタウン・アートワークディレクター／学習院女子大学教授)

Tokyo Midtown Award アートコンペは今年で7回目を迎えます面白くなってきました。パブリックスペースに置く作品のアイデアを競うコンペは世界でも類を見ないものです。机上の空論でない実現可能で、ただし前代未聞のアイデアを求めます。それには自分の良いところをよく知ることが重要です。そしてコンセプトをしっかりと見据えること。東京ミッドタウンを通りかかった人が思わず足を止めるような美しくかつ斬新なアート。難しい条件ですが突き抜けたアートを是非提案してください。



### 土屋公雄

(彫刻家／愛知県立芸術大学大学院教授／武蔵野美術大学客員教授)

現代アートの持つ可能性を、大都市東京のご真ん中で意欲的に提案できるTokyo Midtown Award アートコンペは、他に類を見ないアートコンペです。ただ、現実的な公共空間の中に、アートという究極の私的表現を持ち込むことは、時として想像以上の日常や環境に飲み込まれてしまうかもしれません。しかしそこで経験するパブリックの問題は、アートで都市を刺激するチャレンジングな創造の世界でもあるのです。それぞれが独自のアプローチで、新たな表現に挑戦してください。



Photo by Miura Haruko

### 中山ダイスケ

(アーティスト/アートディレクター／東北芸術工科大学グラフィックデザイン学科学科長)

Tokyo Midtown Award アートコンペは大変珍しいコンペです。専門家が集まって詳しく審査したり、何度も作家にプレゼンしていただくにも関わらず、観客は自分の用事でミッドタウンを歩く、アートに期待していない人々です。日頃のみなさんの展覧会に訪れるアート好きの観客とは違います。作品への期待も、審査のポイントもそこに集約されています。だからといって、普段と違う事をする必要はありません。いつもより少しだけ客観的に、自身の作品と観客の関係を考えて欲しいのです。きっと何か、新しいきっかけとなるはずですよ。



Photo by 米倉祐貴

### 八谷和彦

(メディア・アーティスト／東京藝術大学先端芸術表現科准教授)

このアートコンペには、学生の方、大学で助手などをされている方、すでに作家活動をされている方、デザイン事務所や設計事務所で働きながら作品を作っている方、などなど様々な方が応募してくださっています。こう書くと、「すでに作家としてやってる人には到底敵わないのでは…」と学生さんとか尻込みしてしまうかもしれませんが、意外と学部の大学生もたびたび入賞して作品を展示しています。「街の中に作品展示をする」というのは、単に作家の実力だけではなく、展示される場所と作品の相性など、普通学校で評価されること以外も選考の鍵になります。ということで学生さんも気後れせずぜひエントリーしてください。もちろん、実力派のあなたの応募もお待ちしております。